

# メディアの世界で働く

マーク・ジョセフ

カリフォルニア州のラミラダに住んでいるマーク・ジョセフさんは、宣教師の子どもとして日本で生まれ育ち、クリスチャンとして音楽、映画などメディアの世界で働いてきた方です。編集スタッフが、その仕事と家庭生活を伺いました。

「ジョセフさんは長年メディアの仕事をしてきたようですが、具体的にはどんなものがありますか。」

ジョセフ NHKで中級英会話という番組を制作しました。アメリカ人の有名人、たとえば俳優さんや政治家などをインタビューして、それを日本人が聞いて英語を勉強するという番組です。その後BOWOW(バウワウ)という局でニュース・キャスターをやりました。



それから、映画の世界に入り、「ナルニア物語」やメル・ギブソンの「パシヨン」やレイ・チャールズズの映画などの制作またはマーケティングをしてきました。一ナルニア物

語には、どのように関わったんですか。ジョセフ 「ナルニア3」には関わっていないんですが、1と2では、本から映画の脚本にする作業です。私が実際に書くわけではないんですが、作家が実際に頭で考えていたもの、なるべくそれに近いものをチームで作る作業です。

あとはマーケティング、つまり広く知らせる仕事です。

「私は今、ジョセフさんの本を目の前に持っています。「ライオンと教授と映画物語から映画へ」というタイトルですが、これはどんな本ですか。ジョセフ 一つの章は、CSルイスという教授の世界観を描いています。彼が、「白雪姫」という映画を見て、「この映画は大嫌いだ」と友だちに手紙を書きます。ルイスとはそういう人なんです。ポッパルチャーを大事にして、その価値を考えていた人です。後の章では、どうやって本から映画を作るのかを書きました。

ハリウッドのプロデューサー同士にも意見の衝突があります。ある人は「こういうふうに変えたい」と言えば、ルイスの息子のダグラス・グレシャムは「父の書いた通りに作りたい」と言う。そういうケンカが、実はハリウッドには多いんです。

## ○原作者の考えを映像に

ジョセフ 私は、なるべく原作者の考え通りに作るべきと考えますが、ハリウッドの典型的な考えは、「そのアイディアをもとに、現代版を作る」というものです。

「たとえば、「ナルニア物語」で言えば、私も子ども時代に何度も読んで、自分の子どもにも読み聞かせしていますから、映画版が出るなら、本に近いものを期待するわけですが、ハリウッドでは原作とは離れたものを出す可能性があるんですか。」

ジョセフ ほとんどがそうですよ。ハリウッドの前提は、「昔のものはつまらない、今のはおもしろい。だから、昔のアイディアを取っても、それをカッコよく直さなくちゃいけない」という考えです。で、非常にむずかしい。

「そういう考えでメディアに影響しているのは誰ですか。ジョセフ 俳優、女優、プロデューサー、つまり全部ですね。アメリカでは、伝統的なものを捨ててハリウッドに行った人間が多いですから。」

たとえば、アイオワ州で育って親の職業を離れて、ハリウッドに来て新しい生活をするというように、ある程度伝統を捨ててきた人間が多い。その価値観が映画に入るわけです。

「今のお話にあるように、イリノイ州で育ち、ハリウッドに来て、その後ワシ

トンに行った人にレーガン大統領がいいますが、ジョセフさんは今レーガンを主人公にした映画を作っていますね。ジョセフさんの役目はどういうものですか。ジョセフ プロデューサーです。レーガンの父親はお酒好きでしたが、母親が非常に熱心なクリスチャンで、レーガンは母の価値観と聖書の価値観を持ってハリウッドにやって来て、そこで何十年生活してもその価値観がほとんど変わらないんです。ワシントンに行ってもあまり変わらない。そういう意味では、珍しい人です。」

ニューヨーク、ロサンゼルス、ワシントンなどでは一般的に、中絶は合法であるべきと考えられています。レーガンは、現役の間の中絶反対の本を書きました。

最近、レーガン夫人を演じる女優と契約をしました。今は、レーガン大統領を演じる俳優を3人捜しています。10歳と、18歳と、40歳から77歳までのレーガンを演じる俳優さんです。

「この映画が日本でも公開される可能性はありますか。ジョセフ はい、そう願っています。製作発表をした時、外国メディアの関心の高さに驚きました。ポーランド、日本、中国、ドイツ、フランスなどで、ここま

で関心を示すとは思いませんでした。

(後半略)